

北東北水田地帯における肉用牛繁殖経営および公共牧場利用実態に関する調査・分析

近藤恒夫・東山雅一・福田栄紀

(東北農業研究センター)

Analytical Survey on Beef Cattle Production Farmers and Cooperative Pasture in Paddy Region of Northern Tohoku

Tsuneo KONDO, Masakazu HIGASHIYAMA and Eiki FUKUDA

(National Agricultural Research Center for Tohoku Region)

1 はじめに

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針(平成17年)では、基本的な展開方向として自給飼料基盤に立脚した大家畜生産の振興をあげている。そこで、地域における自給飼料基盤に立脚した肉用牛繁殖経営の高位安定化への方策を探るため、北東北水田地帯における肉用牛繁殖経営と公共牧場の実態を調査・分析する。

2 試験方法

北東北0市I地区を調査対象地域に選定し、管内公共牧場(1牧場)の管理運営実態、肉用牛繁殖農家の飼養実態について、0市担当機関および管内JAへの聞き取り調査、管内肉用牛繁殖農家(約300戸)へのアンケート調査と聞き取り調査を行った。また、公共牧場の植生調査、作業日誌調査も実施した。

3 試験結果及び考察

(1) 調査地域の畜産概況

調査地域は耕地面積約5100haのうち田が90%以上占める典型的な水田地帯で、牧草専用地は84haに過ぎず、管内公共牧場の放牧地面積(100ha)にも及ばなかった(表1)。肉用繁殖雌牛の規模別農家戸数の動向をみると(表2)、平成16年から19年にかけて5頭未満と5-9頭の層が減少した一方、10-19頭と20頭以上の層が増加しており、地域としては経営規模拡大の傾向にあった。

(2) 公共牧場の放牧預託

公共牧場の放牧預託頭数は平成元年の237頭から平成19年には548頭に増加しており、平成19年の預託頭数は管内飼養頭数の約30%に相当した。放牧期間中の頭数は放牧馴致期間と閉牧前を除くと240頭から300頭の間であり、放牧圧は強いものの、0.40kgの日増体量が得られていた(図1)。すなわち、この公共牧場は

自給飼料基盤の十分でない水田地帯における土地・飼料資源として重要な位置にあった。

(3) 肉用牛繁殖農家の実態

飼養規模上位10農家のうち8農家は公共牧場の放牧預託を利用していた(表3)。最上位のA農家の経営規模の推移をみると(図2)、放牧預託開始を境に、20頭強規模での停滞から、転作田での自給飼料生産の拡充を伴う飼養規模拡大に進み、約10年間で飼養頭数80頭を越え、繁殖専業経営に至った。この農家では平成19年には公共牧場に延べ5471頭・日預託しており、これにより削減された牛舎での作業・労働時間(畜産物生産費統計に基づく推計値:1038時間)が、約13haに及ぶ大規模な飼料生産を可能にしているとみられ、放牧預託は肉用牛繁殖経営の質的変革の契機となり得ることが示唆された。

(4) 地域における経営規模拡大への方策

規模拡大が見込まれる中規模層(飼養頭数10-19頭)の農家は22戸、総飼養頭数は282頭であるが、放牧預託を行っている農家は8戸と少なかった。一方、この調査地域では200haを越える未耕作の水田が分布しており(表1)、その利活用が課題である。従って、中規模農家層が先行する大規模農家層(20頭以上)に追随して、公共牧場への放牧預託を活用しながら未耕作水田での飼料生産を図ることにより、地域における小規模農家層の飼養頭数減を補いつつ、繁殖経営規模を拡大することが可能になると考えられる。

4 まとめ

北東北水田地帯において、放牧預託は肉用牛繁殖経営の質的変革の契機となり得ることが示唆された。また、自給飼料基盤の拡充に基づく繁殖経営規模拡大への方策として、中規模農家層(飼養規模10-19頭)が先行する大規模農家層(20頭以上)に追随して、公共牧場への放牧預託とそれにより転作田での自給飼料生産の増強を図ることが考えられた。

表1 事例地域の耕地概況

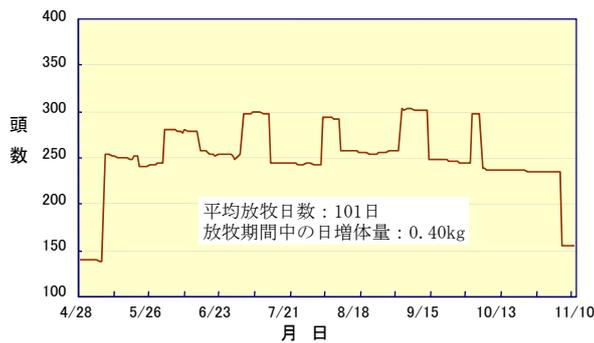
経営耕地総面積	田					牧草専用	普通畑
	面積計			未耕作			
	水稲	飼料作物	未耕作	未耕作	未耕作		
5053	4692	3352	669	216	84	237	

(ha)

農林業センサス (2005)

表2 肉用繁殖雌牛飼養農家の規模別戸数と飼養頭数

	5頭未満		5-9頭		10-19頭		20頭以上	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
平16	209	484	66	427	20	259	13	440
平19	192	435	62	408	22	282	15	491



公共牧場の概況

- ・放牧草地面積: 100ha、小牧区数: 58、平均小牧区面積: 1.7ha
- ・放牧草地の植生: ケンタッキーブルーグラス(植被率29%)、トールフェスク(20%)、オーチャードグラス(13%)、シロクロバ(12%)、レッドトップ(9%)など
- ・採草地面積: 55ha
- ・貯蔵粗飼料生産量: 総生産量: 434t(現物)、ロールバールラップサイレージ: 375t(現物)、ロールバール乾草: 59t(現物)

図1 公共牧場における放牧期間中の放牧頭数の推移 (平19)

表3 上位10農家の飼養頭数と放牧預託頭数

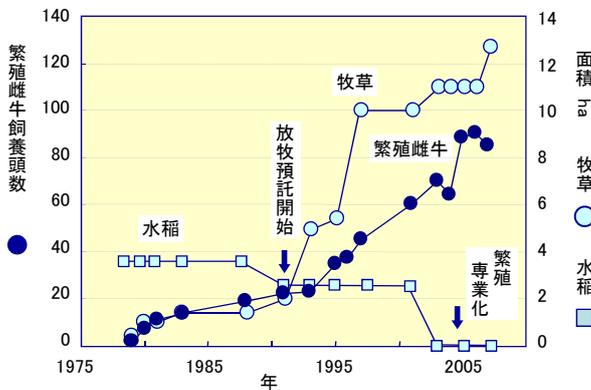
農家	飼養頭数	放牧預託頭数
A	85	59
B	47	47
C	45	24
D	40	40
E	39	0
F	31	24
G	30	18
H	24	19
I	24	23
J	23	0

(平19)

表4 中規模農家の戸数、飼養頭数、放牧預託利用戸数

農家戸数	飼養頭数	放牧預託利用戸数	放牧預託頭数
22	282	8	60

中規模: 10-19頭飼養



A 農家の概況 (平19)

- ・牧草専用: 0.4ha、田(牧草作付け、借地含む): 12.7ha、山林: 0.7ha
- ・牧草収量: 3~3.5t/10a、調製: ロールバールラップサイレージ
- ・作業機: トラクタ2台、ジャイロテッド: 1台、ロールバール1台、ラッピングマシン1台
- ・公共牧場への放牧預託: 延べ5471頭・日、1日あたり27.4頭
- ・イナワラ収集: 25ha、75t

図2 A農家における経営規模の推移